

2020年(令和2年)10月6日(火)

NPOが公開質問状

三島駅南口再開発 地下水保全に疑念

市に提出

三島市が推進する三島駅南口東街区再開発計画について、地下水の保全を不安視する地元のNPO法人・グラウンドワーク三島(GW三島)が5日、市長宛ての公開質問状を提出した。高層ビル建設予定地に地下水観測穴を設けなかったため、影響が把握しきれないなどの疑問を投げかけている。

再開発は、高さが90・5以上の22階建てマンション・商業施設棟などを建設する計画。公開質問状は①地下水観測穴がないため、今年7～8月の地下水上昇時の水位が把握できていない②別の観測地点の地下水データを代替

しており、正確性に欠ける③高層ビルの基礎底面と地下水面までの距離が3・56以上かなく非常に短い④地下水位上昇により、建設工事中に汚濁水が流れる可能性がある——などと疑念を示した。26日までの回答を求めている。

GW三島の小松幸子

理事長は「前回の東京五輪のころ、工場開発などで地下水が水源の小浜池が枯渇した。市の調査の内容に不備があると疑問がわいた。しっかりと調べて不安を解消してほしい」と話した。公開質問状を受け取った三島市の杉山浩生・企画戦略部長は「地下水への影響がないように進めることが市のスタンスだ。内容を確認して回答したい」と述べた。

【石川宏】



公開質問状を三島市の杉山浩生・企画戦略部長(左)に手渡すグラウンドワーク三島の小松幸子理事長＝三島市役所で